

# ERIC 通信 第 17 号

2004 年 5 月 1 日発行

## 走向未来！わたしたちとともに

事務局長 角田 尚子

毎年、年度末に実施する「TEST-教育力向上講座」は、次年度への予感に満ちあふれています。03 年度末の「TEST」は、「Teachers Effective Skills Training」から「Trainers' Effective Skills Training=TEST」に進化したファシリテーター養成講座ですが、すでにさらなる進化の予感がしています。「Trainers and Teachers Education and Effective Skills Training」へです。

ERIC が力を入れて推進しようと思っている「持続可能性のための教育(ESD)」の実現に向けて、ファシリテーター養成が変わります。ESD ファシリテーターズ・カレッジ！それは、ファシリテーターを目指す人によって担われ、学びとられていくプロセス、学んだことを共有していくプロセスのこと。「持続可能性」について、そして「持続可能性」のために、主体的に求められ、学びとられ、共有されていく教育の提供を ERIC は目指します。

1989 年の設立以来 15 年、ERIC の積み上げてきたものは、まさしく「持続可能性のための教育」のニーズに応えるものでした。環境教育というだけでなく、人権教育というだけでも、人間関係トレーニングだけでなく、ERIC が提供できるものは何なのか「わかりにくい」面もありましたが、今年度のカレッジ講座 by ERIC の 7 講座の構成に、ESD のあるべき姿が見えてくるのではないのでしょうか。あなたが、そしてあなたの組織が、あなたの地域が、必要とする学びが、ERIC にはあります。

すべての教育が「持続可能性のための教育」へと変身していく、していかなければ、持続可能性への道を閉ざしてしまうかもしれないという時代にあって、ERIC ネットワークの方々と、質の高い教育の提供を担い続けるために、成長し続けたいと願っています。ぜひ、ESD ファシリテーターズ・カレッジ推進にご参加ください。

## ERIC 2004-2009 年 鍵となる方針

1. 持続可能性のための指導者育成を充実、拡大する。
2. 指導者育成のための制度や方法論について社会的提言を行う。
3. 持続可能性のために、紛争解決、和解などの平和的問題解決の方法を探る。

## 「T' EST—教育力向上講座」

2003年3月20日～22日 2時間×9セッション

参加者：19名（ERICメンバーを含む）

今回は角田（事務局長）がコーディネーターをつとめました！

### 【「T' EST」の位置づけ】

2003年度ERICでは、6つのテーマを柱としたファシリテーター養成研修を、年間を通して行ってきました。「国際理解」「環境」「人権」「対立の扱い方」「持続可能な開発」、そして「教育力向上（T' EST）」講座。それぞれのテーマについて理解したい「内容」を学びながら、それを参加型で共有し考えるための「ファシリテーターのスキルや方法論」を掛け合わせて学んでいくことが、ERICの提供するファシリテーター養成研修の大きな特徴です。03年度も、アクティビティの進行や開発、プログラムの立案、スキルトレーニングの指導法、参加型地域づくりの方法論など段階を追って学んできました。

今回の「教育力向上（T' EST）」講座は、ファシリテーターの資質を持った指導者としての、または指導者のコミュニティとしての、考え方やスキル、具体的な課題を実践的に検討するものでした。また、前頁で紹介した通り、今回の研修は、ERICがこれまで進めてきた「指導者育成のための研修（Teachers Training）」から、「指導者育成を行う指導者のための研修（Trainers' Training）」へと大きく方針を変化させる第一歩目となりました。「鍵となる方針」にもとづいて、今後、さらにERICのファシリテーター養成講座は発展・充実していきます。

### 【「T' EST」の概要】

#### ■講座の目標

- ・協力してより質の高い教育を作り出す力をつけよう！
- ・そのためには現状の把握とシステム思考による改善のプロセスを繰り返そう！
- ・指導者としての資質の教育とスキルの習熟を目指そう！
- ・そのためには実践あるのみ、みんながファシリテーター！

### 【「T' EST」で共有した発見】

ERICのファシリテーター養成講座の実施プロセスは、より具体的なテーマや課題をみんなで検討しながら新たな発見や創造を目指す「ワークショップ」でもあります。今回の講座でそれぞれが発見したことはおもに以下のようなことでした。

- 共有したい「概念」の変化：  
「ワールドスタディーズ10の概念」から「ESD」へ。社会をつくる手段としての概念から目標としての概念へ。
- ファシリテーターの4Rs： Record→Report→Review→Resource。学びを記録し、共有し、評価し、リソースとして活用しよう。

- 「レッスンバンク」の新しいシステム：講座に参加した参加者もレッスンバンクをつくりまします。ファシリテーターのスキルとして4Rsを実践しよう。

- 動く「からだ」づくり：気づいたらすばやく動く「頭のいいからだ」をつくろう。

### ■3日間の進め方と構成

3日間（全9セッション）の進め方は、参加者どうして2～3人のチームをつくり、1チームが1つのセッションを担当します。セッション1で、共通理解づくり・チームづくりを行ったのち、参加者の各チームが協力して後のセッションを担当（計画・実行・評価のプロセス）します。実践を通すことで「エコロジカルスキル」を身につけることができる（!）のです。セッションごとに用意されているリソースフォルダ（検討素材やアクティビティが入っています）を活用して、担当チームがその時間のファシリテーターをつとめます。

1日目はグローバルに共有したい「概念」を理解するためのアクティビティ、2日目は気づきから行動へと「動くからだ」になるための「スキルトレーニング」の方法論の検討などを行いました。そして、3日目は「コミュニティの課題」とファシリテーターとして学びを広げていくための行動計画づくり、3日間のふりかえり評価を行いました。

（全9セッションの構成は、表の通り）

今年度から始める「ESD ファシリテーターズ・カレッジ」としての「ファシリテーター養成講座」by ERICでは、果たしてどんな発見や発展があるのでしょうか、とても楽しみです！

	第1日目 アクティビティ 気づきの課題 公共的な概念	第2日目 プログラム 気づき行動への課題 公共的な行動	第3日目 カリキュラム 集合としての育ちの課題
10:00-12:00 課題	<セッション1> 共通基盤づくり ・話し合いのルールづくり ・ファシリテーションの準備	<セッション4> からだからだ ・行動力の課題	<セッション7> コミュニティづくり ・課題の分析
13:00-15:00 試行 実践	<セッション2> 気づきのアクティビティ開発 ・アクティビティの体験と開発	<セッション5> スキルトレーニング を考える	<セッション8> 行動計画づくり ・行動計画づくり、実現のための宣言文
15:10-17:10 検討 評価	<セッション3> アクティビティ検討 ・公共的概念の共有 ・アクティビティ評価	<セッション6> スキルトレーニング 検討 ・既存事例の検討 ・実践の課題	<セッション9> まとめ ・3日間のふりかえり、今後に向けて

04年度ファシリテーター養成講座 by ERICは、6月からはじまります。参加受付中です！また、講座をみなさんの地域でERICとともに開催しませんか？ぜひ、ご連絡、ご相談ください。「ESD ファシリテーターズ・カレッジ」推進のビジョンに向けて、ともにすすみましょう。

※T' ESTの詳細は5月発行のレッスンバンクでも紹介しています。

「国際理解」は、在籍教員が試みていたグローバルな視点を育てるための活動を、竹台高校の教育課程の中に位置付けようと開設された科目です。ERICはこの2年生の選択科目を市民講師として2000年から担当しましたが、この3月をもって終了することになりました。そこで今回は4年間をふりかえり、成果と課題をまとめたいと思います。

## ■4年間で取り組んだこと

はじめの2年間は、新しく導入された総合的な学習を「国際理解」のテーマで取り組む際の内容・方法：参加する力を育てることと世界を読み解く概念を学ぶことをカリキュラムの中でどのように実現できるかを考えました。

3年目からは、参加型を学校の担当外の先生方にも知っていただいて、わたしたちの実践だけにとどまらないような働きかけを試み、授業実践レベルでの協働に取り組みました。週2コマから1コマになったことも新たなチャレンジでした。

## ■取り組みの主な成果

### 1. 中等教育段階の国際理解教育のカリキュラム立案のモデルができたこと

経験学習は体験する、ふりかえる、一般化する、応用するの4つのステップをふみますが、中等教育段階でグローバルな視点を取り入れようとする際に課題だと感じるのは、生徒がもっている一般化を導き出すための「体験」の少なさです。そのために身近に起こっている具体的な事例について理解を深めながら(2001年9.11事件、2002年川の汚染)あるいは深めたくて(2003年イラク戦争)、抽象的な概念を学び、現実を読み解くという段階をふみ、1学期と2学期をかけて「気づきから行動へ」の流れをつくりました。この中で生徒は、自分とは関わりが少ない、あるいはしかたがないと感じていた事が、実はそうではないのだという実感をえたようです。

またこの形は、生徒自身が自分が何を学んできたのかをストーリーとして掴めるという利点がありました。

### 2. スキルの自己習熟と学びのコミュニティとしての成長

「国際理解」は6クラス混合の20~30名でした。毎年1学期の始めには学級づくりに時間をかけました。お互いに高めあうことを基本に、この講座で年間を通して身につけたいスキル項目のリスト(聴く、考える、伝える、情報収集、分析、グループワークの6項目、17の下位項目)を掲示しました。生徒はそれを参考に自分自身のスキル目標を設定し、学期ごとに達成度の自己評価を真摯に行いました。スキル目標は学級の共通の目標としてコミュニティ意識を育てる力にも働いたと思います。スキル項目の立て方・表現については生徒の実情や、その一年何に重点をおくかで検討が必要です。

### ■協働の効果と課題

2003年度、竹台高校では「国際理解」の目標・方法についての説明会に6人の先生方が集まってくださり、過去の共有、ビジョンの共有を行いました。その結果教員2人、ERIC2人のチーム体制で取り組むことになりました。その後も職員室インタビューや生徒のプレゼンテーションのジャッジ、公開授業への参加など多くの協力を得ることができました。授業づくりの協働によって双方に豊かな学びがあり、参加型についても深く理解していただけたように思います。理解したことを実践することへつなげるには、やはりファシリテーターとしての教育とトレーニングが必須なのですが、ESDファシリテーターズカレッジの実現で、そのような学習の機会が、中等教育段階の教員の方々にも増えていくことを願っています。

※2003年度2.3学期の実施内容はレッスンバンク14-34に収録しています。

## ERICが進める「まちづくり」その③

事務局 渡辺

東京都足立区からの委託調査事業

### 発展へ！ビジョンに向けたプロセス・デザイン -協働のガイドラインづくり-

住民主体・行政との協働で、地域の公園をいかに活用推進していくかを考えながら、2000年度よりERICが「プロセス・ファシリテート」を支援してきた事業が終了しました。区民の方々と行政の方々とともに進めてきた4年間の大きな流れは、「過去の共有→現状分析→共通基盤づくり→行動計画」という「フューチャーサーチ会議」の構造に加えて、さらに「計画の実践→実践推進のための体制づくり→実践発展のためのガイドラインづくり」というところまで行うことができました。

作成したガイドライン(指針)は、協働で行う公園活用の実践「公園まるごとおもちゃ箱」という催しを今後も発展的に続けていくことができるように、03年度に事務局が主導し区民と行政が協力してつくりました。行政における意思決定の困難さ、作成プロセスへの区民参加のあり方など、課題はありましたが、年度末のワークショップで無事全体の合意を得ることができました。

ERICが支援する事業としては03年度で終了しましたが、区民と行政の取り組みは今後も続いていきます。公園という公共の場における協働は豊かなコミュニティづくりに貢献します。足立区の取り組みは、足立区の公園管理課に問い合わせるか、区民団体のネットワーク「公園おもちゃ箱の会」のホームページ(<http://www.green-plan.co.jp/kouen-omochabako.html>)をご覧ください。また、住民参加の取り組みをお考えのみなさん、ぜひERICとともにプロセスをつくり出しませんか? Let's Design, 走向未来!

【「おもちゃ箱実施ガイドライン」の基本的な考え方(抜粋)

- ①最終的には区民自身が「おもちゃ箱」の開催主体となることを目指しており、ガイドラインは、その目標に向けたものである。
- ②「おもちゃ箱」の実施内容や実施のかたちについて今後も改善や発展を願い、「おもちゃ箱」を実施していく中で課題がでた場合は区民と行政の話し合いで解決していくこと。
- ③ガイドラインそれ自身が「公園活用」や「公園活用推進」を進める取り組みの一つであるという理念のもとに、ガイドラインの作成・運用・定期的な評価、見直しを区民と行政の協働で行うこと。

# プロジェクト・インターンへの参加を通して・・・

インターン 三原愛子

2003年10月より約4ヶ月、ERICの過去・現状の分析を行い未来の方針づくりを目指したプロジェクト「Project-be」に参加しました。プロジェクト終了後は、アクティビティ開発や研修の記録づくりなどを担当しました。スタッフの方々との交流を通して、「NPOで仕事をするということ」はもちろんのこと、「プロジェクトを参加型で、また、チームで効果的に進めて行くにはどうしたらいいか」を学ぶことが出来たのは、私にとって大きな収穫でした。私は日頃「知ることから始めよう」ということをモットーに生活していますが、今後も、そんなきっかけを与えることが出来る、また、その輪を広げることに出来るファシリテーターを目指し、学び続けることが出来ればと思っています。

まずは、鍵となる方針③「持続可能性のために紛争解決、和解などの平和的問題解決の方法を探る」ということについて、自分なりに出来ることを考え、行動に移して行くことが出来ればと思っています。みなさんも一緒にやりませんか？

## インターン募集！

ERICで取り組んでいるプロジェクトを共に担い、推進していただけるインターンを募集しています。ERICのプロジェクトは、「参加型」の手法を活かして進めています。インターンとして関わることで、効果的なプロジェクト運営のノウハウが身につきます。また、自分たちでERICのリソースを活かしたプロジェクトを立ち上げることも可能です。時期や期間、条件などは個別相談に応じます。ぜひご連絡ください！

## スタッフ・組織の変更 お知らせ -「ESD ファシリテーターズ・カレッジ」を推進しよう！-

03年度3月まで「プログラム提供部」を担当していた足立理恵さんが、事務局スタッフとしての役割を終えられました。約2年間、おもにERICの研修業務を担当されてきましたので、多くの方々と接点があったことと思います。ありがとうございました。

4月より同部は「ESD ファシリテーターズ・カレッジ推進事業部」として、位置づけと使命をかえ、渡辺が担当しています。たくさんの方々のところで、「持続可能性のための教育」を担う指導者を育てるための「ESD ファシリテーターズ・カレッジ」ができたかと考えています。みなさんとともに進めていきたい「カレッジ」構想は、まだまだはじまったばかりです。ぜひご参加、ご協力ください！

ぜひお声かけください。

## わたしたちとともにすすみましょう！

- |  |   |   |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>↓ 「ESD ファシリテーターズ・カレッジ」を考え進めたい！</li> <li>↓ ファシリテーター養成講座 (by ERIC) に参加したい！</li> <li>↓ 講座や研修を依頼したい。ERICとともに実施したい！</li> </ul> | } | <p>■ ESD ファシリテーターズ・カレッジ推進事業部：渡辺</p>                                       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>↓ ERICのテキストで学びを広めたい、深めたい！</li> <li>↓ 教材を利用したい、創りたい！</li> </ul>  | } | <p>■ テキスト普及部：鬼木</p>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>↓ ERICのファシリテーターと参加型事業を進めたい！</li> <li>↓ 何かおもしろい新たな取り組みを始めたい！</li> </ul>  | } | <p>■ ERIC ファシリテーター：<br/>足立、角田、加藤、木野、金光、佐藤、福田<br/>■ 運営委員、スタッフ、その他のメンバー</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>↓ ERICの資料室で情報を探したい、学びたい！</li> </ul>   | } | <p>■ 資料室担当：廣嶋</p>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>↓ メールマガジンや通信などで情報がほしい！</li> </ul>   | } | <p>■ P.I 担当：直井</p>  |

〒114-0023 東京都北区滝野川1-93-5-105 コスモ西薬ビル  
 特定非営利活動法人  
 国際理解教育センター  
 TEL03-5907-6064 FAX03-5907-6095

Eメール：[eric-net@try-net.or.jp](mailto:eric-net@try-net.or.jp)  
 ホームページ：<http://www.try-net.or.jp/~eric-net/>

